

うたいぼん

謡本を読んでみよう!

「若手能」鑑賞のための入門講座

講師 能楽大倉流小鼓

ひさだ やすこ
久田陽春子



能鑑賞がはじめての方向けの入門講座です。

能の台本を「謡本(うたいぼん)」といいます。

平成27年1月31日に行われる第24回「若手能」大阪公演の演目「百万(ひやくまん)」「野守(のもり)」を実際の演能の流れに沿った解説を聞きながら、一部みんなで声に出して読みます。

文語で書かれているために聞き取りにくく、難しいと思われがちな能を楽しく理解して、能鑑賞をより充実したものにしてみませんか。

◆日時 平成27年1月11日(日) 13:00~15:30(開場 12:30)

◆場所 大阪市立中央図書館 5F中会議室

◆定員 60名(当日先着順) 入場無料

◆対象 どなたでも



◆お問い合わせ 大阪市立中央図書館

利用サービス担当 TEL:06-6539-3301

第24回「若手能」(※)大阪公演の演目について

百万（ひゃくまん）

能の曲目。四番目物。五流現行曲。狂女物。観阿弥(かんあみ)作と考えられる『嵯峨物狂(さがものぐるい)』を世阿弥(ぜあみ)が改作したもの。実在した百万という曲舞(くせまい)の名手の芸能尽くしに、母子再会のストーリーを重ね合わせた、春の物狂い能。大和(やまと)の男(ワキ)が、西大(さいだい)寺のあたりで拾った少年(子方)を連れて、嵯峨の清涼(せいりょう)寺釈迦(しゃか)堂の大念仏会(え)に出かける。所の者(間(あい)狂言)がおもしろいものを見せようと大念仏を唱えると、百万(シテ)は、リズムのとり方が悪いといいつつ現れ、笹(ささ)を手に音頭をとる。彼女は夫と死別し、ひとり子とは生き別れになったために狂女となっている。百万は、乱れ心ながら子供を恋いつつ身の上を語り、インド、中国、日本と三国伝来の釈迦像の由来を舞い、わが子との再会を祈る。そしてめでたく親子の名のりで終わる。観阿弥は、百万の末流である女曲舞師の乙鶴(おとづる)に学び、その曲舞のリズムを能へ導入した。従来のメロディ本位であった能の音楽に革命をもたらしたことと、謡い、語り、舞うことのできるクセが能の構成の中心に据えられたことの原点として、『百万』は注目される曲目である。

<“百万”, 日本大百科全書(ニッポニカ), ジャパンナレッジ (オンラインデータベース)>

野守（のもり）

能の曲目。五番目物・切能。五流現行曲。世阿弥(ぜあみ)作。出典は『奥義抄(おうぎしょう)』『袖中抄(しゅうちゅうしょう)』などの歌学書。羽黒山の山伏(ワキ)が大和(やまと)国春日野(かすがの)を訪れる。野の番人である野守の翁(おきな)(前シテ)は山伏の質問に応じ、野守の鏡の故事を物語る。鬼神の持つ鏡とも、天子の狩りのとき梢(こずえ)に逃げた鷹(たか)を映した泉を野守の鏡ともいう二説である。昔をしのび涙する翁は、やがて野の塚に消え、まことの鏡を見たいと祈る山伏の前に、鬼神(後(のち)シテ)が鏡を持って現れる。宇宙のすべて、天上から地獄のありさまのことごとくを映し出す大きな鏡の奇跡を見せ、大地を踏み破ってふたたび地の底に帰っていく。歌物語の優雅と、鬼の豪快さを融和させ、大人の風雅をメルヘンとした、世阿弥の名作の一つ。

<“野守”, 日本大百科全書(ニッポニカ), ジャパンナレッジ (オンラインデータベース)>

(※)若手能 ……大阪・兵庫の40歳以下の若手能楽師が企画・運営し、行っている公演
主催 / (独)日本芸術文化振興会 国立能楽堂 協賛 / (公社)能楽協会 大阪支部
後援 / 大阪府 大阪府教育委員会 大阪市 大阪市教育委員会

関連図書展示

講座の内容に関連した図書展示を行っています。こちらもぜひご覧ください。

【タイトル】能の世界へご案内

【日時】：平成26年11月21日(金)から平成27年1月14日(水)まで

【場所】：地下1階文学側 新着図書コーナー横